

# 令和7年度全国学力・学習状況調査における

## 北九州市立 あやめが丘 小学校の結果分析と今後の取組について

文部科学省による「全国学力・学習状況調査」について、6年生を対象として、令和7年4月17日（木）に、「教科（国語、算数、理科）に関する調査」、文部科学省が指定した日（4月18日から4月30日の間）に「児童質問調査」を実施いたしました。

この度、本年度の調査結果を分析し、今後の取組についてまとめましたので、お知らせいたします。

学校の現状を知っていただくとともに、ご家庭での取組の参考にさせていただきたいと思っております。

なお、本調査により測定できるのは、学力の特定の一部であり、学校における教育活動の一側面に過ぎません。本校では、他の教科等も含め、総合的に学力向上を目指しています。

### 1. 調査の目的

- (1) 義務教育の機会均等とその水準の維持向上の観点から、全国的な児童生徒の学力や学習状況を把握・分析し、教育施策の成果と課題を検証し、その改善を図る。
- (2) 学校における児童生徒への教育指導の充実や学習状況の改善等に役立てる。
- (3) そのような取組を通じて、教育に関する継続的な検証改善サイクルを確立する。

### 2. 調査内容

#### (1) 教科に関する調査（国語、算数、理科）

##### 教科に関する調査（国語、算数、理科）

- ① 身に付けておかなければ後の学年等の学習内容に影響を及ぼす内容や、実生活において不可欠であり常に活用できるようになっていることが望ましい知識・技能等
- ② 知識・技能等を実生活の様々な場面に活用する力や、様々な課題解決のための構想を立て実践し評価・改善する力等

※調査では、上記①と②を一体的に問うこととする。

#### (2) 児童質問調査

##### 児童質問調査

- 学習意欲、学習方法、学習環境、生活の諸側面等に関する調査

### 3. 教科に関する調査結果の概要

#### (1) 全国・本市の学力調査（国語、算数、理科）の結果

本年度の結果	国語		算数		理科	
	平均正答数	平均正答率	平均正答数	平均正答率	平均正答数	平均正答率
本市	8.9	64	8.6	54	9.1	53
全国	9.4	67	9.3	58	9.7	57

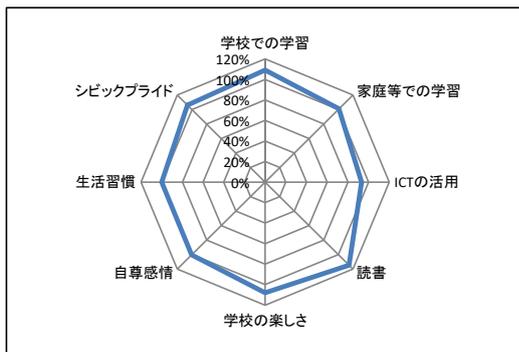
#### (2) 本校の学力調査結果の分析

国語	全体的な傾向や特徴など	「知識・技能」に関する内容、「思考力・判断力・表現力」に関する内容ともに、全国平均を下回っている。特に、「書くこと」に関する内容の正答率が低い。	全国平均正答率との比較 下回っている
	よくできた問題	・自分が聞こうとする意図に応じて、話の内容を捉える問題	
	努力が必要な問題	・情報と情報の関係付けの仕方、図などによる語句と語句との関係の表し方を理解し使う問題 ・目的に応じて、文章と図表を結び付けるなどして必要な情報を見付ける問題	

算数	全体的な傾向や特徴など	「知識・技能」に関する内容、「思考力・判断力・表現力」に関する内容ともに、全国平均を下回っている。特に、「図形」領域や「測定」領域に課題が見られる。	全国平均正答率との比較 下回っている
	よくできた問題	・異分母の分数の加法の計算をする問題	
	努力が必要な問題	・数直線上で、1の目盛りに着目し、分数を単位分数の幾つ分として捉える問題 ・目的に応じて適切なグラフを選択して出荷量の増減を判断し、その理由を言葉や数を用いて記述する問題	

理科	全体的な傾向や特徴など	「知識・技能」に関する内容、「思考力・判断力・表現力」に関する内容ともに、全国平均を下回っている。特に、「生命」を柱とする領域に課題が見られる。	全国平均正答率との比較 下回っている
	よくできた問題	・赤土の粒の大きさによる水のしみ込み方の違いについて、【結果】や【問題に対するまとめ】を基に、他の条件での結果を予想して表現する問題	
	努力が必要な問題	・身の回りの金属について、電気を通すか、磁石に引き付けられるかの知識を問う問題 ・レタスの種子の発芽の条件について、差異点や共通点を基に、新たな問題を見だし表現する問題	

### 4. 学校での学習活動、家庭での生活習慣等に関する質問調査結果の概要



全国平均を100としたときの本校の割合

質問調査の結果分析	
・	「学校に行くのが楽しい」「自分には、よいところがある」の問いに対する肯定的回答は、90%を超えている。
・	「友達や周りの人の考えを大切に、お互いに協力しながら課題の解決に取り組んでいる」「話し合いを通して、自分の考えを深めたり、新たな考え方に気付いたりすることができている」等の話し合いに関する問いの肯定的回答率は、90%を超えている。各教科等の学習において、協働的な学びを促す授業づくりを全校で進めた成果であると言える。
・	「授業においてICTを活用している」と回答した割合が低かった。今後は、職員研修を行い、調べ学習やドリル学習、また、話し合いにおける情報共有や考えの整理等にも活用できるようにしていく。

### 5. 調査結果から明らかになった、課題解決のための重点的な取組

#### ① 教科に関する取組

<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 「あやめスタイル」を活用し、共通理解を図りながら全校体制で学習指導を行っていく。</li> <li>・ 友達と協働的に学習し、「できた」「分かった」を実感できる授業づくりの継続（話し合い活動の更なる充実）</li> <li>・ ICTの効果的な活用の推進（調べたり考えをまとめたりする場面、交流する場面などにおける活用の工夫）</li> </ul>
---

#### ② 家庭生活習慣等に関する取組

<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 望ましい生活習慣や家庭学習について、学級活動の時間に見通しをもつ機会を設定したり、通信等で保護者へ啓発したりして、一層の充実を図る。（児童自身が自らの課題を捉え、調整し、習慣を身に付ける）</li> <li>・ ICTを活用した家庭学習の更なる充実（AIドリルアプリの活用）</li> </ul>
---